

ひだまり

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

平成28年3月1日 第7号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

2016 Vol.

7

もくじ

秋田市の映画文化の調査を通して学んだこと	1
後援会活動報告(後援会長), 就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部就職活動支援(キャリア委員長), 就職内定状況	4
就職情報室利用学生インタビュー／贈ることば	5
「スタージュ」及び「教職自主ゼミ」の取り組みについて／学部長あいさつ／大学学部関係行事予定	6

秋田市の映画文化の調査を通して学んだこと

私たちは地域文化学科の授業である「地域学基礎」で、「秋田市の映画文化を考える」というテーマの下、秋田市内の映画館の歴史や場所の移り変わり、秋田市の映画環境の現状について調査を行いました。

調査の一環として、かつて映画館が多数存在していた川反・有楽町地区周辺のフィールドワークを行いました。そこで私たちは、建物が残っている場所よりも、建物がなくなりアパートや駐車場などになっている場所の方が多いという事実を目の当たりにし、移り変わりの激しさを痛感しました。

また、秋田市にある映画館の1つである「週末名画座シネマパレ」の支配人の川口豊さんにインタビューをさせていただいた際には、名画座の魅力や映画興業の現状などについてお話を聞くことができました。川口さんはお話の中で、映画というものは映画館で見ることを想定して制作されていて、映画館で見たときにいちばん魅力が伝わるものだから、ぜひ映画館に足を運んで映画を見て欲しいとおっしゃっていました。川口さんの言葉の端々からは映画に対する熱い思いが伝わってきました。

秋田市には新作映画を上映する映画館だけではなく、シネマパレのように昔の映画を上映する名画座もあるため、様々なジャンルの映画を見ることが可能だとも言えます。他県では名画座は珍しいため、わざわざ県外から秋田を訪れる方々もいるそうです。私たちは、秋田



は映画を見る環境が他県より整っていないのはいか、その為映画館に足が向かない人が多いのではないかと考えていました。しかし、インタビューをして、映画を巡る現状は厳しいけれど、ユニークな方法で経営が行われているということに初めて気付かされました。

調査を通して、観客側とは違った視点で秋田市の映画の状況について見直すことができました。様々な映画を見ることができ環境にも関わらず、秋田の人はそれに気づいておらず、映画館に足を運ぶことが少ないことは非常にもったいないと思いました。ぜひ多くの人に映画の魅力を知ってもらい、映画館で映画を楽しむ人が増えて欲しいと思います。



教育文化学部地域文化学科 1年次
金川夏希、佐々木麻美、高野佑太郎、成田梨奈、橋本侑奈、皆川涼子、森元樹



後援会活動の 一層の充実を

教育文化学部後援会 会長 辻 純一

秋田大学教育文化学部の後援会会員の皆様、並びに教職員の皆様におかれましては、日頃から当会へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、今年度もまもなく終わろうとしています。これは同時に新たな始まりをも意味しています。特に卒業生は、新しい社会への旅立ちに胸を高鳴らせているのではないのでしょうか。大きな成長の陰に、学生自身の努力があるのはもちろんですが、そこには教職員の皆様の親身になった指導も大きく関わっています。本学部においては、学生たちの学びの充実に向けて個別に相談にのるなど、学生の実態を踏まえた細やかなサポートをしてくださっております。このことが、学生たちの安心感を高め、学ぶ意欲を向上させる原動力になっているのではないかと感じています。

また、就職活動においても、専任の職員を配置した就職情報室の運用や、就職セミナー、教員採用支援講座「スタージュ」、[スプリングキャンプ][オータムキャンプ]など、学生の主体性



平成27年度の理事会・総代会の様子

や共同性を生かした取組をしていただいております。

後援会としては、今年度7月11日に理事会、並びに総代会を開催し、それを受けて各地区会を開催しました。その際には、大学の先生方にご出席くださり、前述した大学の具体的な取組や就職状況をはじめとした様々な情報を、詳細にわたって提供してくださいました。今年度も、学部課程においては、昨年同様に就職内定率が上昇しているというお話をお聞きして、多様な取組の成果の表れであると感謝しております。今後も後援会として、学生一人一人が充実した学生生活を送ることが出来るよう、一層支援の充実を図りたいと思います。

会員の皆様には、今後も会費納入をはじめ、各方面でのご協力をお願い申し上げます。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

平成27年12月5日(土)に開催した中央地区会にて、4年生就職活動・大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く、今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず、学生にとっても参考になる内容です。

教員採用試験を通して学んだこと

教育文化学部 学校教育課程
教科教育実践選修 田口 凌



私はこのたび、就職活動をするにあたって教職という道を選びました。きっかけは大学2年生、3年生のときの教育実習です。子どもたちと触れ合う中で日々たくさんの刺激をもらい、子どもたちの成長を一番近いところで見守っていききたいと考えたからです。また校種についても悩みましたが、小学校を受けることにしました。小学校は他の校種とは違い6年間あるので、子供の成長をより長く近くで見たいと考えたからです。

まず私が教職の道に進もうと決めてから本格的に対策を始めたのは、11月頃でした。いざ教員採用試験に向けて勉強しようと思っても何をしたらいいのか全く分かりませんでした。そこでまずは、自分が試験を受ける自治体の分析をしました。私は秋田県と千葉県の2県を受けましたが、それぞれの試験内容や傾向を調べてみると1次試験は筆記が大半を占めることが分かり、筆記試験の勉強のため、この時期は机に向かう時間がとても多かったです。机に向かう日々が増えるとストレスが溜まったり、心が折れそうになったりする毎日でした。そんな日々を送っている中で共に教職の道に進むと決めた仲間の存在はとても大きかったです。今まで高校受験や大学受験などの試験は一人ですものだと考えていました。しかしこの教員採用試験

と共に臨む仲間たちは違いました。わからないところは互いに教え合い、夜遅くまで研究室に残り、たまに一緒に息抜きをしてみんなで切磋琢磨することができました。2次試験でも同様に仲間がたくさん支えられ、助けてもらいました。この体験から私はこれから教職の道を目指す後輩の皆さんにこれだけは伝えたいです。試験では決められた人数しか受かることができません。そのために誰かを蹴落としてまで受かりたいという気持ちが出るのも当然のことです。しかし同じ志をもった仲間と同じ目標に向かって進むということはこれからの人生であらう何回経験できるでしょうか。決して敵と思わず、よき仲間、よき味方としてかわって行ってほしいです。

今回の進路決定は、ゴールではないです。やっとスタートラインに立てたと考えます。これから出会う子どもたちにも今回の自分の体験を伝えていきたいと思っています。教職は責任の大きな仕事ですので、責任感をもってがんばっていききたいです。

公務員を目指す方々へ

教育文化学部 地域科学課程
政策科学選修 藤原 尚也



・なぜ秋田県庁を志望先にしたのかについて

私は高校の時より、将来は生まれ育った秋田県に貢献できる仕事がしたいと漠然と考えていました。しかし、そのときにはまだ候補の一つとして秋田

県職員になりたいと思うだけであり、強く志望していたわけではありませんでした。そんななか大学3年生のときに秋田県庁のほうにインターンシップに行く機会があり、そこでの仕事や秋田県の現状を目の当たりにし、ここで仕事がしたいという気持ちが強くなりました。特に、それまでは公務員の仕事は事務的なものが多いと考えていた私にとって、「県職員には独自のアイデアを考え、実行していくことも求められる」というお話は大変、印象に残りました。

・公務員試験について

公務員試験は筆記試験の一次試験と面接の二次試験という構成になっているところが多いです。まず、一次試験の対策についてですが、私は生協の公務員講座でもらった問題集の法律・経済・数的処理を年内に2周することを目標にしています。年明けからは、模試を受ける機会が多くなりその復習を中心に勉強していました。模試は、受けるかどうか迷う方もいるかと思いますが、私としては自分に足りていない部分が見えるため受けてよかったと感じています。

一次試験の勉強は範囲が大変広いので、計画を立て勉強しなければなかなか点数を取ることはできません。模試や大学の就職支援をうまく利用して、どこでどのくらい点数を取るのかということをしっかり意識しながら勉強に取り組むことが大切になると思います。

二次試験対策としては個人面接において、一つの部分について深く聞いてくる場合があるので、どんな質問が来るのかある程度想定しておくとういいます。私は学校の就職支援や友達に面接練習をしてもらおうというようにいろんな方の助けを借りながら面接対策に取り組んでいました。いろんな方に面接練習をもらうことにより、様々な角度から質問やアドバイスをもらうことができました。

公務員試験は対策に必要な期間が長く、苦勞しましたが学校の就職支援や家族、友人の支えがありなんとか乗り切ることができたように思います。

私自身、四年間の大学生活で得たことを活かし、4月から社会人として仕事をしていきたいです。

就職活動が始まるまでに取り組んだこと

教育文化学部 国際言語文化課程
国際コミュニケーション選修 **水庭 布紗子**



私は4月から日本赤十字秋田看護大学で働かせていただくことになりました。そこで、就職を決めた経緯と大学時代に取り組んだことを紹介させてもらいたいと思います。

私は高校生の時に参加したMt.Fuji2010という活動がとても心に残っています。この活動は富士山の麓で日本全国・世界各国の人が集まり、活動を通して交流していくというものです。私の班にはモンゴル、フィジー、パキスタンから来ている人がいました。もちろん通訳があるので、コミュニケーションを取ることはできます。しかし、1つの言葉を伝えるのにも2倍の時間がかかってしまうことに、もどかしさを覚えました。その活動で私は、自分が世界中に広がる赤十字のネットワークの中のちっぽけな存在であることを痛感しました。さらに、赤十字の活動は多岐にわたり、同じ志をもった仲間たちが世界中にいることに、改めて気づくことができました。そのような経験をさせてくれた、日本赤十字

社に携わっていききたいという気持ちを強く抱きました。

そして、大学時代に取り組んだことは震災復興支援団体AKITAIDというサークルに入って活動したことです。主に被災地ボランティアや、被災地の物産の委託販売行いました。その活動で、震災関連のイベントに呼んでもらう機会が増え、様々なつながりができました。もちろん被災地支援も赤十字の大きな活動の1つです。サークルでは、1から企画してボランティア志願者を受け入れる立場も経験できました。大学時代に友達、先輩、後輩と交流することももちろん大事ですが、社会に出る前に外部の大人と関わることも重要だと思います。

就職活動が始まる前にこのように色々な活動に参加させてくれて、自分の進路決定の幅を広げる機会を作ってくれた家族にとっても感謝しています。今後は日本赤十字社の様々な事業に取り組んで、秋田県が抱える問題を赤十字の視野から改善できるように努力していきたいと考えています。

もっと学びたい

教育文化学部 人間環境課程
環境応用選修 **松本 深鈴**



大学院進学者としてお話をさせていただきます。私は新潟県佐渡市出身です。あの小さな孤島がわかりますか？「なぜ、あんな所からわざわざ秋田に…?!」と、よく言われます。秋田に来る事を考えたのは高校3年生の時に「教師になるなら秋田の教育を学んできたら？」と先生から言われた事がきっかけです。それだけ秋田の教育は県外からも注目されています。実際、4年間を通して本当に多くの学びがありました。

私が大学院へ進学した理由は、「もっと学びたい」「特別支援の免許がとりたい」この二つです。今年度の採用試験を私は受けました。新潟県を本命とし、併願であと2県、計3県の採用試験を受けました。入学してから絶対に一発で合格すると心に決め、採用試験に臨みました。しかし、いざ蓋を開けてみると三つとも不合格でした。本当にショックで、初めて人生の挫折を味わったと思いました。ところが、落ち込んでいる間もなく教育実習が始まりました。その時出会った生徒に私は救われました。実習の最終日、号泣してしまった私に生徒は「絶対先生になってね。」と言いました。その一言で私はやっと立ち直れました。「私は絶対先生になる。生徒のためにもっと学びたい」この思いが進学を決めるものとなりました。実習中に私は自分の発問力の無さを痛感していました。大学院に進み、発問の研究をし、それを自分の即実践力にしようと考えています。

もう一つ「特別支援の免許がとりたい」という理由ですが、私には知的障害の弟がいます。生まれた時から一緒に生活してきて、私には障害が有る、無いは全く違和感なく、どちらも普通なことです。今インクルーシブ教育が注目されています。障がいのある生徒とない生徒の架け橋となれる教師、そんな教師も私の理想の教師であると思い特別支援の免許を取ろうとしています。

最後に、採用試験に落ちて、講師登録をするか進学するか本当に悩みました。選択する最終要素は「自分が何をしたいのか」だと思います。私は「力をつけたい、もっと学びたい」だったので進学を選びました。

教育文化学部の就職支援活動について

キャリア委員長 林 良雄

本学部の就職支援は、教員、公務員、一般企業と分けて活動しております。それぞれについてご説明いたします。

教員採用試験については、通常の授業で学ぶ内容を十分身につけていることが最低限必要ですが、それ以上に、教師としてやっていけるかが面接や模擬授業等で確かめられます。本学部ではこれに対応するために、授業外にスタージュや教職自主ゼミという、学生が自主的に参加する講座を週二回行っております。

平成27年度の教員採用試験の結果ですが、昨年度より、よい成果が上がっています。秋田県の採用試験では現役合格者は若干の増加で、小学校の合格者が比較的多くなっております。ただ、秋田県の採用数についてはまださほど多くはありませんので、他県との併願を勧めております。併願する他県で一番多いのが千葉県となっております。

公務員については正規の合格者は昨年を上回っております。このところ、公務員志望者がかなり増加しており、支援の強化を進めております。公務員志望の学生の多くは公務員に関する知識がない上に、公務員になり何をしたいのかもわからないのが実情です。まずはその部分について、2年生でしっかり考えさせることが必要であるという観点、および3年生までに何を勉強すべきか、ということから指導を続け

る方針です。

民間企業への就職についてです。平成27年度は就職状況が更に改善してきており、28年度についても同様の傾向といわれています。採用活動のスケジュールについては再び変わり、3月広報解禁、6月採用活動解禁となります。ただ、このスケジュールは経団連に加盟している企業に対するもので、加盟していない中小や外資系の企業は6月までに採用活動が始まります。また、加盟企業でも実質的な選考が6月までに行われているところもあります。これに対応するためには2、3月からの対策が必要となっております。今、3年生のお子様をお持ちの保護者の方々には是非とも、早めの対応をお子様にご指導いただければ幸いです。

どの就職でも、本学部キャリア委員会および一部後援会のご支援で運営しております就職情報室できめ細かい対応をしておりますので、何か困ったことが有りましたら、ご相談くださるよう、お子様にお伝えください。

2月末データ

就職内定状況	学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他
				合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	
教育文化学部	学校教育課程	108	6	98	38	60	72	28	44	73.5	73.7	73.3	4
	地域科学課程	68	0	65	31	34	60	28	32	92.3	90.3	94.1	3
	国際言語文化課程	67	2	63	21	42	57	19	38	90.5	90.5	90.5	2
	人間環境課程	61	4	55	29	26	40	19	21	72.7	65.5	80.8	2
	小計	304	12	281	119	162	229	94	135	81.5	79.0	83.3	11
教育学研究科	31	1	29	16	13	15	7	8	51.7	43.8	61.5	1	
合計	335	13	310	135	175	244	101	143	78.7	74.8	81.7	12	

就職情報室 利用学生インタビュー

後援会の会費で運営されている就職情報室。普段、学生はどのように利用しているのかインタビューしました。



インタビューに答えてくれたみなさん

(前列左より)

地域科学課程文化環境選修4年次 船木晴奈さん
国際言語文化課程日本・アジア文化選修4年次 会津朱音さん
就職情報室 村上さん

(後列右より)

学校教育課程教科教育実践選修4年次 佐々木昂大さん
学校教育課程教科教育実践選修4年次 櫻川和さん
就職情報室 信太さん

Q:就職情報室をどのように利用していましたか?

櫻川: 大学3年生の春頃から教員採用試験に向けて準備を始め、過去問をコピーしたり、模試や説明会の情報収集に利用していました。就職情報室に来ることで、資料だけでは分からないことも知ることができました。

船木: 月に2回程度利用していましたが、多いときは週に2、3回訪れ、志望する業界や企業の情報収集をしたり、面接で聞かれる内容などを教えてもらいました。また、先輩を紹介してもらったり、就職活動に関する様々な悩み事を聞いてもらいました。

Q:利用してみて良かったことはありますか?どんな場所ですか?

佐々木: 先輩方の残してくれた情報や過去問などの情報収集のために利用していましたが、悩み事の相談や、たわいもない話をしてリラックスできる場所でもありました。つらい勉強期間中に職員のお二人が応援してくれたおかげで、無事に希望する県の採用試験に合格することができました。

会津: もともととは公務員志望でしたが民間企業を受けることにしたので、分からないことが多く不安でしたが、エントリーシートを添削してもらったり、アドバイスをもらうことで不安を解消することができました。

Q:最後に、ご両親へのメッセージをお願いします。

佐々木: 様々な面で支えてくれた家族には本当に感謝しています。今まで支えてもらった分をこれからは私が支えられるように頑張ります。

櫻川: 自分のやりたいことを様々な面でバックアップして

くれて本当に助かりました。これからもっと成長し、親孝行をしていきます。

船木: 県外へ就職することに理解を示してくれ、就職活動中に経済面でも支えてくれて感謝しています。これからはたくさん恩を返せるよう孝行していきます。

会津: 就職活動中は精神的にも支えてもらい感謝しています。4月からは私が両親を支えられるよう頑張ります。

Q:ありがとうございました。

贈ることば



旭水会会長 大友 康二

「旅立ち」という歌があります。

“過ぎたいつの日にか

人生を振り返るとき

やはりこの人であり

この妻でよかった しあわせだと

そう言える二人になり

そう誇れる家庭をつくりたい”

(以下略)

この旅立ちの歌は、結婚式の歌ではありますが、私は別れを告げるすべての人にあてはまる歌だと思っています。

大学時代に恋愛に縁のなかった人も、恋に破れた人の心も、すべては何か目に見えない膨大な大きなものとの別れです。

大学の校舎・生活・師・友人・土地等だけでなく、それぞれ思いは同じでも、形の変った別れをしている筈です。それをもう一度、心に確かめる時間がこのときだと思うのです。旭水会の時間はそれなのです。

知らない間に長寿社会が形成されています。それだけに人生のデザインは大きく多面的にならないといけない筈です。いい道を選べるのか、いい形に染まるのか、大きな流れの中で前に進む皆さんの姿は魅力的です。

自分たちの青春と比較すると、まぶしすぎるくらい華やかで美しいのです。

思い出を大切に、思い出を生かして、大学四年のスケッチを心に留めておいてください。一万に近い先輩が待っています。

おめでとうございます。

「スタージュ」及び「教職自主ゼミ」の取り組みについて

キャリア委員会教職担当 長瀬 達也

現在、秋田大学教育文化学部は教員就職率の向上を目指し、武田学部長を先頭に全教員及び全職員が日々努力しています。教員就職率は、文部科学省が全国の国立大学法人44大学の教員養成系学部を調査して、公表しているもので、教員免許状取得が卒業要件である卒業生(本学部であれば学校教育課程卒業生)に対する教員就職者の割合です。

本学部(学校教育課程)平成27年3月卒業生であれば、57人(正規採用者と4月採用講師の合計)÷98人(学校教育課程卒業生)×100で58.2%でした。そして、全国平均は60.5%で、全国順位は31位でした。平成24年3月卒業生では教員就職率が41.7%で、全国順位が44位と最下位でしたので、最近の教員就職率などは全国平均に肉薄しています。なお、文部科学省は卒業生から大学院進学者と保育士就職者を除いた教員就職率も調査しています。こちらは68.7%で、全国平均が同じく68.7%、全国順位が25位ですから、大変善戦していると考えられます。以上の成果は、本学部、そして教員と職員が、学生の就職に対する責任を果たしている証しの一つです。

この教員就職率向上、つまり教員採用支援に大きく貢献しているのが「スタージュ」及び「教職自主ゼミ」です。「スタージュ」はキャリア委員会が月曜日に実施していて、秋田県や千葉県などの教育委員会による教員採用試験説明会、教職に関するガイダンス、教員採用試験合格者と語る会、集団討論及び小論文の指導、面接の指導、そして教員採用試験受験者のほぼ全員参加する1泊2日の「スプリング・キャンプ」及び「オータム・キャンプ」を行っています。教職自主ゼミは教職キャリア支援室(研究家教員と、教育現場の経験が豊富な実践家教員による組織)が水曜日に実施しているもので、現在の教育現場で話題になっていることや、教員として基本的に身に付けておくべきことについて調査、発表して、話し合います。また、教職キャリア支援室は、模擬授業の指導などによって、学生の授業力向上においても大きな成果を挙げています。

今後も、本学部の教員採用支援の取り組みへの御理解と御協力を何とぞよろしく御願います。



スタージュ・オータムキャンプ

学部長あいさつ

本当のコミュニケーション能力とは

教育文化学部長 武田 篤

学部後援会は、大学とご父母の皆さまとの相互理解と親睦を図ることを目的に設立された会です。なかでも、後援会からは、学生の就職活動に対して完全就職実現を目指し、重点的な支援をいただいていることに心より感謝申し上げます。

みなさんのご子息・ご息女が学ぶ教育文化学部には、様々な幅広い専門を持った教授陣がそろい、そのもとで多くの学生が共に学び合っています。本学部では、単に専門知識だけでなく、今社会でもっとも必要とされている「コミュニケーション能力」を育てることに力を注いでおります。コミュニケーション能力とは、単に話し方がうまい、とか語学力があるということではありません。本当のコミュニケーション能力とは、「年齢や立場が違う人を理解し、自分との接点を見つけ、関係をつないでいく力であり、そういった人々と協力し合い、チームとして働いていける力」であるといえます。このような社会的能力の基礎的部分は誰もが生まれながらにもっているものですが、この能力は発揮する機会がないと十分に育ちません。自分とは異なる考えや立場の人と出会い、意見を交わし、共に活動することではじめて成長し、確かな力となっていきます。知の多様性を尊重する本学部の学びのなかでこそ、この力を開花させることができると確信しております。ぜひ、大学での教育にご期待ください。

今後とも本学部へのご支援・ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

大学・学部関係行事予定(平成28年3月～)

- 3月 22日 秋田大学卒業式
- 4月 1日 前期開始
- 4月 4日 春季休業終了
- 4月 5日 在学生ガイダンス
- 4月 6日 入学式
- 4月 7日 新入生ガイダンス
- 4月 8日 前期授業開始
- 6月 1日 創立記念日
- 8月 13日 夏季休業開始(9月30日(金)まで)
- 9月 30日 前期終了
- 10月 3日 後期開始
- 12月 26日 冬季休業開始(1月8日(日)まで)
- 2月 22日 春季休業開始(4月4日(火)まで)
- 3月 22日 卒業式
- 3月 31日 後期終了

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

ひだまり
Vol.7

平成28年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊
<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>